

令和4年度(2022年度) 学校経営シラバス

北海道南幌高等学校



本校のミッション
“わたし”と“みんな”の未来を創造する力を育む南幌高校

学校教育目標
1 真理を探究する意欲を身に付けた活力ある人間を育成する。
2 他者への思いやりを持ち、情操豊かな人間を育成する。
3 逞しさとしなやかさを身に付け、自己実現に努める人間を育成する。

本校で育てたい資質・能力		
未来創造力⇒①未来創造力		
【知識・技能】	基盤となる能力⇒⑪基礎学力 ⑫自己肯定感 ⑬常識力	
	前へ進む力⇒⑧実行力 ⑨共感力 ⑩忍耐力	
【思考力・判断力・表現力】	社会へ踏み出す力Ⅰ⇒②思考力 ⑥判断力 ④表現力	
【学びに向かう力・人間性等】	社会へ踏み出す力Ⅱ⇒③共働力 ⑤コミュニケーション力 ⑦自己管理能力	

目指す生徒像	目指す学校像	目指す教師像
「Contribute!」“社会に貢献できる18歳” 1 学びに興味・関心を持ち、主体的に学ぶ生徒 2 未来を諦めずに、その実現に努力し続ける生徒 3 積極的に社会との関わりを持とうとする生徒	「Challenge!」“成長の最大化に挑戦する。” 1 「活用」を重視し、学ぶ喜びにあふれる学校 2 資質・能力を育成し、成長の喜びにあふれる学校 3 社会に貢献し、「ありがとう」がふれる学校	「Pleasure!」“生徒の成長に喜びを感じる教師” 1 本校教育の充実のために創造的に取り組む教師 2 生徒の最大限の成長のために全力で取り組む教師 3 生徒の発達課題に応じて、成長を促す教師

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教育活動	学習指導	◎社会で生きる力の根幹をなす学ぶ意欲と確かな学力の向上	○学び方からの指導など、学ぶ意欲を喚起する授業の工夫・改善 ○個々のがんばりを認める多面的な評価の推進 ○地域人”財”の積極的な活用による社会に開かれた教育課程の実現	□生徒に学び方や学ぶ姿勢を身に付けることができたか。 □ルーブリック評価などを用い、自己評価能力（メタ認知能力）を高めることができたか。 □地域人”財”を活用するなどして、学びを活かす意義について理解を深めることができたか。
	生徒指導	◎社会で求められる協調性・社会性などを備えた豊かな人間性の育成	○適切な生徒理解と成長シナリオの共有による問題行動の未然防止と着実な成長の促進 ○予防的・開発的生徒指導の充実による自己肯定感の育成 ○手帳指導等による自己管理能力の育成によるいじめ予防	□生徒の状況を的確に把握し、成長シナリオの共有により、一丸となって指導できたか。 □それぞれの良さを伸ばす指導を心がけ、自己肯定感を高めることができたか。 □SGEなどの活動を通じて、他者を思いやり、行動する態度を育成することができたか。
	進路指導	◎社会とのつながりの中から、自己の在り方生き方を学ぶキャリア教育の一層の充実	○地域の人的・物的資源を活用し、自らの在り方生き方への思索を深める ○ふるさとを愛し、貢献する意識を育てるふるさとキャリア教育の構築 ○社会に貢献するための基礎的・汎用的能力を高めるキャリア教育の充実	□地域資源を活用して、働くことの意義や生きる意味などへの理解を深めることができたか。 □地域の課題を探究する活動を通じて、社会に貢献する意欲を高めることができたか。 □本校で育てたい資質・能力を高めることができたか。
	健康・安全指導	◎健やかな成長を実現する心身の健康の保持増進 ◎危機管理能力・環境美化意識の育成	○健康で安全な生活を送るための自己管理能力の育成 ○悩みごとへの対処法などSOSの出し方に関する指導の充実 ○危機管理能力を高める実践的な防災教育の充実	□健康や安全に関する講話などを通じて、生命尊重の意識を高めることができたか。 □悩みごとを抱え込もうとせず、適切に対処しようとする意識を高めることができたか。 □より実践的な防災教育により、自他の命を守る意識を高めることができたか。

学校運営	信頼される学校づくり【イキイキ】	◎家庭・地域・関係機関等との連携強化による活力の維持 ◎生涯学習のハブ機能強化による存在価値の証明	○家庭・地域・関係機関・異校種等との多面的な連携による教育活動の充実 ○学校経営の透明性の向上と積極的な情報発信による存在価値の証明 ○PDCAサイクルとOODAループの活用によるたゆまない改善の推進	□多面的な連携の充実により“社会に開かれた教育課程”が実現できたか。 □積極的な情報発信で説明責任を果たすとともに、保護者・地域の信頼が得られたか。 □両サイクルを機動的に使い、業務改善が図られたか。
	組織運営【ワクワク】	◎チーム南高として一体感をもって課題解決に当たる協働体制の確立 ◎ワークライフバランスに配慮した働き方改革の推進	○情報格差を無くし、行動連携の推進による協働意識の向上 ○意思決定システムの遵守による組織的教育活動の推進 ○目的思考による業務の精選と組織改善の推進	□情報共有に努め、組織として行動連携がとれるよう努めたか。 □組織的な活動を意識し、確認・連絡・報告（かくれんぼう）が確実に行われたか。 □業務の目的を再検討し、業務の効率化・平準化を図ることができたか。
	教職員の資質向上【ぐんぐん】	◎積極的な研修機会の活用 ◎服務規律と法令遵守の徹底	○教職員の心身の健康の保持増進 ○失敗を恐れず、たゆまない改善を実現するための研修活動の推進 ○服務に関する研修の充実と人権尊重の徹底	□質の高い教育活動提供のため、心身の健康保持の意識を高めることができたか。 □自らのキャリアステージを踏まえ、必要な資質能力向上のために研修することができたか。 □教育公務員として使命感や責任感を維持向上することができたか。

